

会 議 録

会議の名称	平成28年度第8回守谷市行政改革推進委員会			
開催日時	平成28年11月14日（月） 開会：14時25分　閉会：16時55分			
開催場所	守谷市役所 庁議室			
事務局（担当課）	総務部企画課			
出席者	委員	川西会長，佐々木副会長，福田委員，吉田委員 計4人		
	その他			
	市職員	橋本副市長，後藤教育長，須賀総務部長，坂生活経済部長，木澤保健福祉部長，山中都市整備部長，飯野会計管理者，山崎教育部長，寺田上下水道事務所長，古谷総務部次長兼企画課長，前川課長補佐，石神企画員 計12人		
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人	
公開不可の場合はその理由				
会議次第	1 開 会 2 会長挨拶 3 副市長挨拶 4 議事 (1) 平成28年度守谷市行政評価外部評価報告書の提出について (2) 意見交換 (3) 外部評価に対する市の取組状況について (4) 事務事業評価について (5) その他 5 閉 会			
確定年月日	会議録署名			
平成28年11月18日	会長 川西憲二			

審 議 経 過

1 開 会

2 会長挨拶

最初に海外に赴任するときに、上司から「任地を愛せよ」という言葉を頂き、この言葉に大変助けてもらいました。人生の中で一番大事にしている言葉です。現在は、守谷市民なので、守谷を愛して一生懸命やっという心を決めています。ここにいる皆さんも同じ気持ちだと思いますし、市の皆さんも他の委員の方々もそうだと思います。市の職員の皆さんと私たちが協力し合って、守谷を好きになり、守谷を良くしていこうという気持ちを持って今後も取り組んでいきたいと思っています。

3 副市長挨拶

会長からお言葉をいただきましたが、我々職員も同じ気持ちだと思います。守谷市の人口も11月1日で66,000人を超え、1年で840人増えていますが、やはり近い将来は守谷市でも人口減少はやってきます。そして、守谷市も若いと言われてきましたが、4月には65歳以上人口が20%を超え、今後は他の自治体よりも速いスピードでの高齢化が予想されます。そのような人口減少やインフラの老朽化が見込まれる中、今後の守谷市の行財政運営はかなり厳しくなることが予想されますが、幸いなことに、守谷市では、ここ10年で借金をピークの半分近くにまで減らすことができました。市民の皆様の御理解と御協力を得られたからこそ、住みよさランキングで常に上位にランクされてきたのであり、今後ともこの姿勢を続けていかなくてはなりません。新しい市長がどういう施策を打ち出すかはみえていませんが、将来的に発展していくためには、基本的な姿勢は変わらないことを期待しています。報告書からは、委員の皆様一人ひとりが守谷を愛しているからこそ、真剣に討論していただいたという結果が読み取れます。私たちも、その気持ちに応えるべく努力してまいりたいと思います。

川西会長： 本日の議事につきましては、これまでどおり、皆様からの異議がない限り、氏名を付したままで、意見の内容を議事録といたします。

4 議 事

(1) 平成28年度守谷市行政評価外部評価報告書の提出について

【川西会長から「平成28年度守谷市行政評価外部評価結果報告書」を副市長へ提出】

川西会長： 今年度も前年度に引き続き、評価の対象を個別事務事業としました。評価に当たっては、その事務事業で実際に成果が上がっているのかとの

視点を重視しました。

対象は、第二次守谷市総合計画の施策体系のうち「商工業の活性化」、「集客資源の創出と充実」、「広聴と情報発信の充実」の3施策内の評価に値すると思われる各事務事業といたしました。

個別事務事業は、貢献度と事務事業の必要度という観点で評価しています。継続というものもありますが、統合、改善、廃止というものが多く見受けられます。ただ、これでは結論だけですので、評価と提言の趣旨を明確にするための一助としまして、議論の中で出された各委員の生の意見を委員の個人名も付して記載しています。

なお、私達5名の委員の任期は本年度までとされています。そこで、本報告書提出に際して、是非皆様の御記憶にとどめていただくために、特に次の3点を申し述べさせていただきます。その3点とは、苦言、お礼、お願いの3つです。

第1点は苦言です。報告書の2ページから10ページを御覧ください。ここには、本年度だけでなく当委員会が過去3箇年にわたり指摘してきた多くの問題点が記載されています。改善意欲の不足、中途半端なPDCA、実態と異なる人工数等々、取り組むべき課題や改善すべき問題点が多くあります。

第2点はお礼です。10ページから11ページを御覧ください。当委員会の活動に対し、守谷市当局の皆様には大変真摯に、真面目に対応していただきました。これは、当委員会委員全員が認識し、感謝しているところです。当委員会の活動に協力していただいた全ての守谷市幹部及び職員の皆様に心からお礼を申し上げます。

第3点はお願いです。11ページから12ページ及び別添資料2を御覧ください。市としては、当委員会の提言に対し前向きに取り組んでおられ、既に成果の出ているものもあります。しかし、PDCAの徹底、人工数の把握方法の変更等、大規模な改革や長期的な対応を要するものも多く、これらについては、正に検討し、取り組んでいただいている最中です。成果が出るのは、今後の皆様の誠意ある取組次第だと思っています。さらに、日常職務における改善意欲の向上など、職員の不断の意識改革が将来も必要とされるでしょう。

この度の選挙で選出される新市長の下でも、必ずこの改善運動を継続、発展していただきたく、委員一同切にお願い申し上げます。

(2) 意見交換

川西会長： それでは、本報告書やその他行政改革全般について、皆様との意見交換に移ります。

橋本副市長： 市では、平成18年度から外部評価を実施してきました。変わって

くる市民ニーズに対し、新たな事業に取り組まなくてはならず、限りある財源の中では、何らかの事業をスクラップしなければ、新たな事業はできません。市長からもそういった声を掛けられますが、どの事業も何らかの目的を持って始めた事業なので、職員からはやめる事業の提案が出てこないのが現実です。皆様から提言いただいたことを少しずつでも繰り返し進めなければ、良い方向に進まないと、報告書を読み改めて感じたところです。この考え方そのものを、今回評価をいただいた事業のみでなく、全般の事業に当てはめて、改善していきたいと思っています。

川西会長： 報告書に対する疑問点や質問点はありますか。

橋本副市長： 成果指標の取り方や成果を表すものが具体的に示せるのかといった問題点は、これから研究する必要があります。

川西会長： 概して、成果指標の立て方は、あまりよろしくないと思っています。活動指標と成果指標は分けて考えてください。活動すれば成果が上がるというものではありません。確かに、何を成果とするのかは非常に難しい問題だと思いますが、その点を意識できているということは非常に良いことであり、かなりの進歩だと思います。

須賀部長： 本質の捉え方が甘いのだと思います。本質をしっかりと捉えられれば、自ずと目的や何をもって成果とするのかが出てくると感じます。事務が楽になる提案もいただきましたので、参考にしたいと思っています。

川西会長： 事務は増えるものですが、いかにして減らすかを考えてください。

橋本副市長： 報告にもありますが、中小企業事業資金融資あつ旋事業の成果をどう捉えるのかは難しい問題です。融資したことによる雇用や税収の増加を行政として捉えられるのかどうか分かりません。

坂 部 長： やはりそこが課題のようです。融資するときには、必要最小限の情報を申請書に挙げていただき、審査会を経て融資決定となります。個別の事業所のその後の状況は得にくくなっています。

川西会長： 融資後に情報を取る旨を、融資するときの契約書に最低限記載する必要があります。成果を測ろうとする気持ちとそれを求める形を作っていたくことは非常に良いことです。件数や金額を成果だとすることから一歩踏み出すことが、職員の意識改革にもなります。これは、極めて難しい問題ですが、重要なことです。いきなり理想的な成果指標を捉えることは難しいとは思いますが、正しい成果指標に近付き、模索している段階には到達してください。

佐々木副会長： 最近の成功した企業の例をみると、コスト削減や売上を事業活動の目標とするのではなく、お客様や市場の満足度をどうやって上げていくかを一番大きな目標として捉えています。市役所の事業においても、市民という漠然とした対象はありますが、個別の事業は絞り込んだ特定のお客様に対しての事業のはずです。特定のお客様を

しっかりと意識した上で、満足度の吸い上げ方を考えてください。漠然と市民全体に対する満足度をみても、個々の事業に対する満足度は出てきません。事業をやる際には、この事業のお客様は誰なのか、その方たちに対しての満足度を上げるものは何なのかを考えることが重要です。もっと自分たちの事業のお客様を意識していただくことが、解決策の一つかもしれません。担当課から事業計画の説明を受ける際に、この事業のお客様は市民だという説明だった場合は、それをもっと絞り込んで市民の中のどのような人たちが対象なのかを聴いてみる必要があります。漠然としていると声も集めづらと思います。

川西会長： 直接的に影響を受ける人と間接的な利益を得る人の2つがあって良いと思いますが、区分して考えていただいた方がはっきりすると思います。

寺田所長： 上下水道というライフラインは老朽化してきています。財源に余裕がない中、成果もさることながら優先順位に着目する必要性について、今回の提言も踏まえて考えていく必要があると感じました。

佐々木副会長： 限られた予算や資産の中で、優先順位は必要です。ビジョンを持って優先順位を付け、その結果やらないという勇気も必要です。やらないという以上、もっと大きな課題があるということを説明できなくてはなりません。特に、管理職の方に、優先順位を付けた上で、その結果やらなくて良いと言える勇気が必要だと思います。

吉田委員： 委員会の提言等を、市役所の皆様に真摯に受け止めていただきました。この会議を守谷市役所の財産や伝統にさせていただきたいと思います。市民が全体的に若い今のうちに、基礎となる市のあり方や市と市民との接点を作っていかななくてはなりません。この委員会は自由に発言ができ、その発言するための情報もいただけたことに、委員全員が感銘しているところです。今後、市民との協働がキーワードになるのなら、この委員会が出発点になると思います。意見を言う、聴くだけでなく、実際に行動に移せるような市民協働のあり方を作ってください。市民の側もそうしていきたいと思います。

佐々木副会長： 吉田委員がおっしゃったように、良い会議ができたと感じています。仕事の進め方についても、役所の皆さんと一緒に良い経験をさせていただきました。継続は力なりという言葉がありますが、年度を重ねて良くなってきたと思います。継続して改善を続けていただければ、必ず良い市政ができると思いますし、市民との間のコミュニケーションも良くなっていくと思います。PDCAというコンセプトを話しましたが、常に振り返りながら未来に向けて改善を重ねていくことは非常に意味があります。ようやく実践していただくところまでできました。

福田委員： PDCAのPには“Passion”を付け加えるべきだと思います。ものに

対する情熱が必要です。P D C Aも重要ですが、情熱を忘れないということも重要だと思います。

また、公園を例に出すと、内容によって建設課あるいは生活環境課という担当区分があると思いますが、市の方にとっては違いが分かっても、一般の方にはその違いが分からないのです。これからは、問い合わせを受けた場合に、分担されている理由まで説明していただけるようになってください。少なくとも市民と市の方は、近い距離であるべきなので、そのような配慮が必要だと思います。

また、もう少し女性の方の幹部登用もお願いしたいと思います。

橋本副市長： 市でも行動計画等で女性管理職の目標率を掲げています。昇格には勤務評定と試験が必要ですが、女性の方がなかなか試験に挑戦してくれません。試験を受けてもらわないと、昇格対象者にはなれません。また、女性職員の方は共働きが多く、金銭的にゆとりがある中で、無理して責任のある地位につかなくても良いという感覚があるのかもしれないかもしれません。毎年何人かにお願いをして、何とか受験してもらっているのが現実であり、それだけ女性の方にとって管理職になる魅力が足りないのかもしれないかもしれません。地方自治体なので、管理職と非管理職で生涯の賃金に大きく差を付けることもできないですし、場合によっては、管理職手当の方が年間の残業代よりも安くなってしまうということもあります。現実には、近隣市町村との比較もある中で、大きく手当を上げることはできません。どうすれば女性の方に挑戦していただけるかは難しい問題です。

福田委員： やはり環境作りだと思います。言い換えれば、女性の方が希望を出しにくい環境なのだと思います。周りの方が勧めても、口に出せない状況があるのかもしれないかもしれません。

佐々木副会長： 私はみずき野に若い人を呼び込む取組をしていますが、その際に「住んでください」とは絶対言わないようにしています。本人がその気にならない限り、住みたくなる環境を作っても絶対に住んでくれません。職員の方についても、どうやってその気にさせるのかを考えていただく必要があります。先ほど副市長がおっしゃられたようなスタートラインに立ってしまうと、多分10年後も同じ状況が続くと思います。市の側の意識も根本的に変えていただき、その気にさせるための何かを改めて考える必要があると感じます。10年や20年経っても制度そのものは大きく変わらないと思いますので、処遇の差で動機付けはできないと思います。逆に全然違う考えで、あなたは次にこういう仕事をしてほしいので、試験を受けなさいという業務命令を出すことも考えられます。要するに、今までの発想で積み上げていっても何も変わらないので、その発想を捨てて、違う発想で考えていただく必要もあると感じます。

橋本副市長： 過去に女性幹部がいたときは、その女性を通して働き掛けをしたこともありましたが、なかなかうまくいきませんでした。

佐々木副会長： 幹部候補生を集めた教育を実施していたときに、女性だけを別枠で集めて行いました。その場合、男女混ぜた中でなく、女性向けのプログラムを作っていく必要があります。そうやって育てていくと、徐々に変わってくるのです。スピード感をもって、最長でも3年で成果が出るような意識改革に取り組みました。

吉田委員： 採用の段階で、その部署のトップになる意欲があるのかどうかをきちんと確認する必要があります。能力のある人に働いていただきたいので、そういうところを仕向けなければなりません。女性の問題は確かに大変ですが、他の自治体などでは男性も試験を受けなくなってきています。無理しなくても良いという風潮が出てきているようです。問題は、役所の仕組みを、昇格することが無理をすることになると思われぬような形にどう変えるかです。給料を上げるのも一つの手段ですが、今は働きがいを実感することも重要になっています。守谷市が女性職員の能力を開発し、伸ばしていきたいと考えるのなら、女性職員を少しずつではなく大量に登用することで変わると思います。孤立させては駄目で、たくさんいることによって状況は変わります。一人の人間が頑張っても組織は動かないので、公正な人事の上で一斉登用するという戦略もあると思います。

佐々木副会長： 例えば、女性だけの課を作ってみてはいかがですか。市の仕事の中で性別に関係なくできる仕事はあると思いますので、そこに女性を集中させることも、強制的にやる一つのアイデアとして考えられると思います。

後藤教育長： 教員の世界でも、県全体で女性の管理職の割合を20%にしようとして取り組んでいますが、実際にはなかなか厳しい状況です。女性自身が置かれた立場から厳しい面もありますが、管理職になった場合の仕事の難しさもあり、なかなか踏み込めない状況です。守谷市の場合では、比較的、女性管理職は多い方であり、特に仕事の負担が大きい中学校で2人の女性の教務主任が頑張っているという姿は励みになると思います。若い先生方に魅力を感じさせ、目標を持たせていくことが重要であり、そういった取組を進めているところですが、女性教員の割合が中学校で4割5分から5割5分、小学校では7割近くになっているのに、管理職はほとんどいないという状況は寂しく感じます。力がある職員はたくさんいるので、なんとか活躍できる場を考えていかなければなりません。管理職登用の制度だけでなく、職種も一緒に考えていかないと難しいと感じます。家庭の協力や女性が管理職になった場合の社会の見方や受け入れ方も随分と変わってはきているものの、まだまだそこには偏見があると思われるので、そういった部分も正して

いき、もっと活躍できる場を作っていきたいと思っています。

また、今年度の評価対象事業だったハーフマラソンの御意見をみると、私たちでは躊躇して言えないような内容が記載されています。フルマラソンといった発想は、どうしてもその先をみてしまい、無理だという話が最初から出てきてしまいます。目標を達成したから終わりという事業ではないので、可能性として検討することが重要であるという貴重な御意見をいただいたと思います。

山中部長： 都市整備部としては、守谷駅前賑わい創出事業が評価対象でしたが、賑わいにある程度の貢献はあったと思っていたので、評価が低く残念に思っています。賃料の収支は期待できませんが、御意見にあった行政施設についても、市民の皆様が事業的には理解し、その方が商業施設よりも良いという結論になれば、そういった使い方も担当課を含めて検討していければと思っています。

山崎部長： ハーフマラソンのフルマラソン化ということには問題もあるようで、なかなか踏み込めないところはありますが、新しい観点で果敢に挑戦してみても担当課に伝えたいと思います。

女性の登用については、育休、産休が大きな障壁になっていると感じています。産休・育休を取って、子ども一人につき2年、3年と停滞してしまうと、現在は、人事評価の遅れによって、段階として遅れてしまう制度になっているので、そこを改善しなければならないと感じました。先ほど御提案いただいた女性だけのグループや課を作るという取組は、非常に有効なものに感じます。

飯野会計管理者： 報告書からは、守谷市のためになっているのかという視点から、委員の皆さん一人ひとりが親身になり考えていただいていることが分かりました。成果指標は、活動指標と明確に分けなくてはならないという話でしたが、評価結果が次年度に反映されるPDCAサイクルの構築に、委員の皆様からの御意見を踏まえて事務局も取り組んでいると思いますので、今後とも御指導をよろしくお願いします。

木澤部長： 今、国民健康保険の保険者としてデータヘルス計画を作成しています。最近、副市長との最終調整を行いました。その中で、これまで立てていた受診率を51%に上げるという目標は、活動指標であるという意見をいただき、もっともだと感じたところです。視点を変えて、どういう指標を成果にしたなら、市民目線で市民の健康にとって良いのかをきちんと整理する必要があると感じました。

坂部長： 総務部長からも本質を見る目という話がありましたが、成果指標はそういう部分と大きく関わってくるものだと改めて感じました。報告書を熟読させていただき、担当課とより良い成果指標について十分に協議していきたいと思っています。

須賀部長： 総務部は6事業評価をいただきましたが、必要度が高い事業が多いの

で、今一度原点に帰り、どういう形がベストなのかを改めて検討した上で、それに近付き、貢献度を上げていけるように頑張っていきます。

寺田所長： 先ほどもお話ししたように、水道や下水道は不可欠なものです。財源が限られている中では、成果があつての話とはいえ、優先順位が大前提になるかと感じています。

また、女性に対する目標設定に関して、どうアドバイスできるかを考えていきたいと思ひます。

事務局： 本日の外部評価を受けまして、今後、市において評価に対する市の対応方針を検討してまいります。その後、市の方針説明のための委員会を開催させていただき予定ですので、よろしくお願ひいたします。

【副市長ほか退室】

(3) 外部評価に対する市の取組状況について

【資料1に基づき、これまで受けた外部評価に対する市の取組状況について事務局から説明】

佐々木副会長： 市の取組状況をみると、平成29年度からという表記が多いですが、29年度には結果まで出せますか。

事務局： 事業単位の統合については、結果は出せます。

佐々木副会長： いつまでに、どこまでやるのかということ、関係部門から明確に合意を取ってください。漠然とやったといつても、中味を聴いてみると、本当にそれで良いのかという結果になることもあります。

川西会長： いつまでにやるのかは重要なことなので、時限がはっきりと分かるように明記してください。

佐々木副会長： 大野地区公民館は、大規模修繕が必要になるまで使用すると記載がありますが、大規模修繕が必要になったときになくす前提であるのなら、その議論はなされているのですか。

事務局： 地元の了解をもらつてはいないようです。

佐々木副会長： 細々と残しておく、ずっと残しておく話にもなつてしまうので、なくすという前提であるのなら、なくすための実績を作つていかななくてはなりません。

事務局： この建物が老朽化していることは間違いないので、期限を決めて地元の了解をもらえるよう進めてもらいたいと担当課にお願いしていますが、今の時点では、使えるうちは使うという説明になっているようです。

佐々木副会長： 優先順位を付けて、やめるものはやめるという勇気も必要だと思ひます。

事務局： 時限を決められるのかどうか、担当課と再度協議します。

川西会長： 急にやめる訳にはいかないと思いますので、早めに伝えて、ある程度の期間を差し上げる必要があります。

川西会長： 事務事業全体としての統合や削減はどの程度進んでいますか。

事務局： 約50事業スリム化され、480事業程度になります。さらに、評価しない事業を増やすことで、300事業程度にすることを目標にしています。

佐々木副会長： 市の取組内容は、簡潔に書いていただきたいです。イメージ図や数字で示していただくと分かりやすいと思います。結論がはっきりと見える方が市民にとっても分かりやすいです。

事務局： 客観的にみえるものは、そのように対応していきます。また、今後提出する市の方針も、箇条書き等による簡潔な表現を意識していきます。

(4) 事務事業評価について

【前回配付した資料3（見直し後の評価表（案）、現在の評価表）に基づき、事務事業評価表の見直し案について事務局から説明】

川西会長： どの部分が予算と同じ項目になるのですか。

事務局： 上段の予算編成システムと連動となっている部分が、システム上で同じ項目として管理します。一番下のコストの欄も同様です。

佐々木副会長： 役所の中の書類で評価表を唯一の事業計画書にしたいという考えがあったと思いますが、これをみると予算説明書や決算報告書といった別な書類があるようにみえます。

事務局： 途中の段階だと捉えてください。最終的にはこの評価表で完結させたいと考えていますが、まだそこまではできていません。

川西会長： その障害は何ですか。

事務局： 今年度を実施することが書いてありません。財務会計から金額面や財源内訳は入ってきて、事業内容や背景も評価表に記載がありますが、今年度の内容のみが記載できていません。内容の欄で、全体内容と年度ごとの内容を記載できれば、対応できるとは考えています。

川西会長： それで良いと思います。総合計画に合わせたこの1枚の書類で予算、決算まで包括できるようにしてください。

佐々木副会長： 議会との関係も含めて、作る書類は最小限にしてください。データがあるのだから、そのデータのコピー&ペーストでも構わないのかもしれませんが、それさえもしなくて良いものにしてください。

事務局： 進捗管理にも対応できるようなシステムを予定しています。担当課で進捗管理は行っていますが、いろいろなやり方があるので、このシステムを使い、一元的に同じような進捗管理ができる形にします。

佐々木副会長： 成果の方向性で「横ばい・停滞，低下」と評価したら，事業の方向性で「維持」と評価できないような制限をかけてください。

事務局： 現在は成果の方向性としていますが，成果は上げていくほかないので，成果の動向という表現への変更も検討しています。いずれにせよ，横ばいであるのなら，何らかの手を打つ必要があるので，横ばいの場合，維持という評価はありえないと思っています。

佐々木副会長： 向上，横ばい，低下という文言からみると，成果の見通しかもしれません。来年以降の成果向上余地についての評価が以前はあったと思いますが，そういう内容をここで書かせるのなら，成果の方向性という表記もあるかもしれません。今後，成果向上の見込みはなくても廃止できない事業は評価しないという方向性であるのなら，この項目は不要かもしれません。全部の事業を評価しようとすることに無理がありました。

事務局： 成果の向上がないことで，統合や廃止のきっかけとなる事業もあるかもしれません。意味合いは違うのかもしませんが，成果の方向性がこうだから事業を廃止するといった流れもあるはずなので，この欄は残した方が良いと考えています。

佐々木副会長： 紙のサイズによって書ける文字数も自ずと決まってきます。評価表を見ると，このスペースで書ける文字数に収めてほしい部分もあれば，もう少し細かく書くべきだと思われる部分もあります。

事務局： 基本的には，現在使用しているシステムと同等の文字数は入力できるよう調整しています。

佐々木副会長： 例えば，中段の改善内容は何文字程度ですか。

事務局： 120文字程度の想定です。

佐々木副会長： ここが事業としての今年の活動の妥当性をみるときに一番重視すべき箇所だと思いますので，その文字数だと評価できる情報がきちんと伝わるのかと心配になります。

事務局： 全体的に長々とした文書が多いので，制限をかけることで簡潔に記載する意識を持っていただきたいという考えもあります。

佐々木副会長： 箇条書きにしてもらうのが分かりやすいと思います。文字の制限があったので情報を削ったというのでは中味がありません。例えば，2ページを前提として，枠ごとに行が一杯になったら次のページに移るというようにしておけば良いのではないのでしょうか。個別にやるよりも，あらかじめ評価から下を次のページにしておくという考えもあると思います。行数を多くすることが目的ではなく，1種類の資料で全部管理できるような内容を網羅するためなので，必要なことは含めるべきです。

川西会長： 現時点では，どのような場合に印刷することが想定されますか。

事務局： 内部で確認用に印刷することはありますが，対外的にはあまり想定されないかもしれません。

川西会長： 実態としてどの程度紙を使うかによって，評価表の構成もだいぶ変わってくると思います。紙を使うのであれば，裏表を使い，入力のと時期に合わせた見せ方を考えてください。この資料を見ただけでは，いつどの時点で何を言おうとしているのかがまだ分かりづらいです。

施策や基本事業の評価表はどうですか。

事務局： 大きくは変えない予定です。ただ，基本事業評価に事中の評価を導入し，事務事業の重点化等を判断して，事務事業の事中評価に反映させるサイクルを取り入れようと考えています。

佐々木副会長： 作るのにいろいろと考えたということは良く分かるのですが，簡単に入力できるという視点も意識してください。

事務局： その視点が抜けているがために，会長の発言にも繋がったのだと思います。

（５）その他

■行政改革実施計画執行管理表について

事務局： 前回の議事であった行政改革実施計画の執行管理についてですが，いただいた意見を基に，様式を再度調整しています。今月下旬には修正案をお送りしますので，できれば次回の委員会前にメール等で御意見をいただければと思います。

■今後のスケジュール等について

事務局： 次回は市の方針の提出を予定しています。現在のところ，平成29年1月23日に開催予定ですが，新市長の意向等で日程が変わる場合があります。また，今後の行政改革推進委員会の進め方等も議論していただければと思います。

5 閉 会